



東京YMCA

2012 9 月号 発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



テラーさんの実家では、出身高校の在校生やホストファミリーが集まって、盛大なフェアウェルパーティが開かれた。



石巻の中学生が訪米交流

テラー基金青少年国際交流事業

石巻市内で小中学校の英語教師として活躍され、津波によって亡くなったテラー・アンダーソンさん。彼女の教えを継ぐため、7月30日から8月7日まで、故郷である米国バージニア州リッチモンド市を訪ねた。今回の訪問は、アンダーソンさんがリッチモンドYMCAの役員であることから、リッチモンドYMCAが受入を引続き受け、仙台・東京YMCAの共同企画として、昨年9月から準備していたもの。資金は「テラー基金」と「YMCA東日本大震災復興支援募

金」から拠出された。また、日米間の交流や指導者育成のために日米カウンスルと両国政府によって震災後に作られた支援組織「TOMODAC HIイニシアティブ」の協力も得た。「テラーの故郷との国際交流体験を通して子どもたちに成長して欲しい」、そんなアンダーソンさんの願いが多くの協力を生み出し、実施となった。(▼2面へ続く)

東陽町ウエルネスセンター

明るくリニューアル



3階ロビー。真っ白な壁に木目調の床が映える。仕切りを取り、ライトを増やしたので、明るく広くなった。



パウダールームは、カーペットも化粧台も新しくなって快適



ロッカーも新式のものに入れ替え

内装刷新、料金・時間も改訂
公益法人の使命を明確に

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

より良い生き方 応援します

東陽町ウエルネスセンター所長
草分 俊一

東陽町ウエルネスセンターを増設しましたので、1は8月6日から18日まで明るくきれいになり、13日間わたる施設改修を行いました。受付ロビーは、仕切りを撤去して広くし、パウダールームの化粧台やロッカーは、新しいものに取替り直し、各所にLEDライ

ニングマガジンの約45台を新機種に取り替えます。また、10月1日から利用時間と、成人の施設使用料を変更します。利用時間は、一部の貸しプールを除き、これまでよりも1時間短縮し、月曜から土曜日の朝10時から夜9時までとします。日曜日も休館になります。このように運営を効率化し、施設使用料を安くすることがYMCAの強みで、それがYMCAの強みで利用時間帯によって月額を最大限に生かし、多くの方々に喜ばれる施設でありたいと願っています。



東陽町センター1階は、玄関正面の教室をラス張りにし、明るく開放的になった。音楽室として、またウエルネスの講習会室など、多目的に使用

使用料はこれまで、年齢や利用時間帯によって月額を最大限に生かし、多くの方々に喜ばれる施設でありたいと願っています。それがYMCAの強みで、それがYMCAの強みで利用時間帯によって月額を最大限に生かし、多くの方々に喜ばれる施設でありたいと願っています。

東陽町周辺には、この25年前に公共のスポーツ施設や企業がフィットネスクラブなどを作られ、今では近隣の約30箇所、スポーツ施設があり、おたがらも努力してまいります。(聞き手 広報室)

「キャンプが僕に教える63年の生涯を閉じてくれた、ことばはたくさんあるけれど、一つだけ立派なものは、飯忍さんをつわすれたくない、それが「キャンプが僕に教える」ということだ。飯忍さんが私達に教えたことは、多岐にわたる。私が、飯忍さんに教えたことは、多岐にわたる。私が、飯忍さんに教えたことは、多岐にわたる。

「追悼」 飯忍主事

すべての人を一つにしてほしい

職員仲間としても多く、飯忍さんの人生を3つに分けて、YMCAの事業・活動の話をして、その本質から外れた

(総主事 廣田光司)

ウエルネスセンターは、1917年日本最初の室内温水プール付きの体育館として生まれ、戦後も、古橋廣之進さんなどがYMCAのプールを利用し、数々の記録を生み出した。男性のみのプールは「フーバー」で有名でした。▼私自身は、体が弱く、51年からYMCAに通い、デンマーク体操を学びました。それ以来、今まで60年間、ホランテアーダーとして、この「体が喜び体操」の指導を受けてきました。▼60年の間には、色々なことがありましたが、65年には新体育館がオープン。体育リーダーも整備され、肢体不自由児の蔵王雪上教室や交通遺児キャンプなどの他、商店会にプログラムを出前し、体育の普及に努力しました。▼73年には杉並センターが設立され、早朝サイクリングやフィットネス、ジョギングが生まれ、子どもや女性などすべての人にスポーツを実践してきました。▼79年にはデンマーク体操交流会には、戦前のYMCAで6年間デンマーク体操を学ばれた、画家の東山魁夷先生をお招きしました。先生は生涯にわたってこれを継承され、私も交流してきました。▼83年にはワイスマンスクラブにウエルネス委員会が誕生、日本区大会でも健康プログラムを企画し、実施してきました。▼これからも、体ばかりではなく、生きがい作り、仲間作りを目指し、指導していきたいと思っております。(名誉会員 堀内浩二)

学生が支援活動 東日本大震災復興

YMCA石巻支援センターを拠点に



毎日、全校生徒の3分の1にあたる約100人がプールにきました。復興期、子どもたちの居場所が地域の課題であることにも気づかれました。

学生たちにとっては、自分が学んでいる水泳指導で役立てる良き機会でした。「自分が指導

社会体育専門課程の在校生17人と引率教員3人が石巻小学校で、7月24日から8月23日の間、合計10日間に渡って水泳指導を担当し、延べ1260人の小学生が参加しました。

最終日には、小学校の先生方と子どもたちが玄関まで見送ってくださいました。中には「僕の電話番号は221××番だからね」と、学生たちに叫んだ子もいました。「この人たちに心なを許せる」「また会いたい」「繋がってほしい」と感じるほどです。復旧は進んだけれど、復興まではまだ、とおっしゃる地元の方の言葉を思い出します。雲ひとつない炎天下、子ども達と笑って過ごした夏でした。

「社会体育・保育専門学校の主任 事補佐 口原恵美子」



社会体育・保育専門学校生17人 専門活かし 水泳指導

した子が25m泳げるようになった。とてなりました。

も嬉しそうに自分も励まされた。「これからも自分なりのお手伝いを継続したい」などの感想が寄せられました。



藤崎一郎駐米日本大使（左）と中学生たち

テラー基金青少年交流事業に参加して

万石浦中学校3年 千葉 瀬奈

交流事業に参加して、この目でテラー先生の生まれ育ったリッチモンドを見てくることができました。また、家族を深く愛していたテラー先生のご両親であるアンディーさんとジンさんとお会いし、テラー先生のお話をすることができて良かったです。(略) 去年の夏に、アンディーさんが私の学校を訪れた日から私は、娘が亡くなられた被災地の石巻に対し、どうして優しく手を差し伸べてくれるのか、気になっていました。1年という月日が流れ、アメリカでアンディーさんにお会いしてその答えをすぐに聞くことができました。「テラーは日本を愛していたから……。私達家族も、そんなテラーを愛していたから。私達家族が、日本との交流を通して、皆にはテラーのように日本とアメリカを繋ぐ架け橋であってほしいからだよ」

ご両親から、私は国を超えて共に生きることの大切さや家族を想う愛、人間の温かさを教えていただきました。

は、ホームステイをしながら地元の子ともたちとの交流の紹介により、ワシントンD.C.にも寄り、藤崎一郎大使に表敬訪問した。高官からアメリカの印象を尋ねられた万石浦中学校の小山萌衣さんは「日本に比べてすべてが大きいと感じました」と答えた。リッチモンドYMCAで

は、ホームステイをしながら地元の子ともたちとの交流の紹介により、ワシントンD.C.にも寄り、藤崎一郎大使に表敬訪問した。高官からアメリカの印象を尋ねられた万石浦中学校の小山萌衣さんは「日本に比べてすべてが大きいと感じました」と答えた。リッチモンドYMCAで

福島親子 242人招待 リフレッシュキャンプ

原発事故の影響で制限された生活をしている福島県の親子を招待している「YMCAリフレッシュキャンプ」を、今夏も下記日程で開催し、計242人が参加した。このキャンプは、三菱商事(株)の協賛により昨年度から通算29回にわたって実施。これまでに1000人以上が参加した。参加者からは「一時避難できるだけでもありがたいのに、リーダーたちに子どもの遊び相手になってもらい、親もリフレッシュできた。心から深呼吸できた」といった感想が寄せられている。大自然の中を思いっきり走り回る子どもたちを見て、涙を浮かべる保護者も多い。今夏は、三菱商事(株)に加えて、シティグループ・ジャパン・ホールディングス(株)も協賛してくださった。感謝である。



妙高4期(7/14~16)の皆さん

| 名称 | 日程 | 参加者数 | 会場 |
|------|-----------|-----------|--------------|
| 妙高4期 | 7/14~7/16 | 11 家族 38人 | YMCA 妙高高原ロッジ |
| 妙高5期 | 7/27~7/29 | 9 家族 39人 | YMCA 妙高高原ロッジ |
| 妙高6期 | 8/10~8/12 | 8 家族 39人 | 戸隠高原へ変更 |
| 妙高7期 | 8/17~8/19 | 9 家族 35人 | YMCA 妙高高原ロッジ |
| 妙高8期 | 8/24~8/26 | 小学生のみ 22人 | YMCA 妙高高原ロッジ |
| 山中2期 | 7/23~7/25 | 10 家族 40人 | YMCA 山中湖センター |
| 山中3期 | 8/31~9/2 | 10 家族 29人 | YMCA 山中湖センター |

山手学舎生6人 学習支援とレクリエーション

私たちが山手学舎生6人を教えたりし、後半は作業や外遊び、お菓子作りなどのレクリエーションを行いました。3日間50人以上の子どもらが石巻支援センターに来ました。最終日には教室がとても狭く感じるほどでした。また被災地で活動に参加したいという思いです。(山手学舎2年 小泉行徳)

医療福祉専門学校生7人 プール遊び 歓声響く

医療福祉専門学校は、8月7日から10日まで、石巻小学校のプールで遊びの支援を行いました。子ども達も、震災を体験し多くの悲しみを抱えているんだということを改めて感じました。(介護福祉科2年 大久保亜耶)

国際ホテル専門学校生16人 プールの補修作業手伝う

今回は本校ホテル科2年生の有志16人と共に石巻市立万石浦小学校のプールサイドのイルミネーションの補修作業を手伝いました。このワークキャンプを通して学生達は2つの「ありがとう」の意味の重さを感じることができたのではないかと感じています。

復興・救援募金のお願い

引き続き「東日本大震災復興・救援募金」へのご協力をお願いいたします。

- * ゆうちょ銀行 (郵便振替) 00120-7-714728
- 公益財団法人東京ワイエムシイエイ 東京YMCA会員事務局
- * みずほ銀行 神田支店 (普) 1677931 公益財団法人 東京ワイエムシイエイ
- * 三井住友銀行 神田支店 (普) 7656469 公益財団法人東京ワイエムシイエイ
- * 現金書留、東京YMCA各部窓口でも承ります

■ 「東日本大震災」とお書き添えください。領収書が必要な方はご連絡ください。

■ 公益財団法人東京YMCAへのご寄付は寄付金控除の対象となります。

「石巻夕涼み会」での遊びの様子



石巻通信 vol.4

YMCA石巻支援センター 伊藤 剛士

今夏、YMCA石巻支援センターでは近隣の子どもたちを対象に、学習支援・レクリエーションや、石巻小学校を訪問し、プール指導など、様々なプログラムを行いました。その結果、夏休み明けにはYMCAのプログラムに何度か参加して、子どもたちが活動を楽しんでくれたり、リピーターも出てきて、「今日は○○リッダーはいないの？」などの時間での飯岡洋介牧師(元東京YMCA主事)と尋ねてくれるようになりました。

8月21日には、日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオが主催する「石巻夕涼み会」で、YMCAは子ども達の遊びスペースを任せ、社会体育・保育専門学校の8人がレクリエーションの時間を担当しました。この石巻の地にYMCAが与えられたことで、地域の子ともたちと継続的に関わることが可能になりました。YMCAらしく、彼らの成長を願って、「共に歩む」活動を続けていければと願っています。

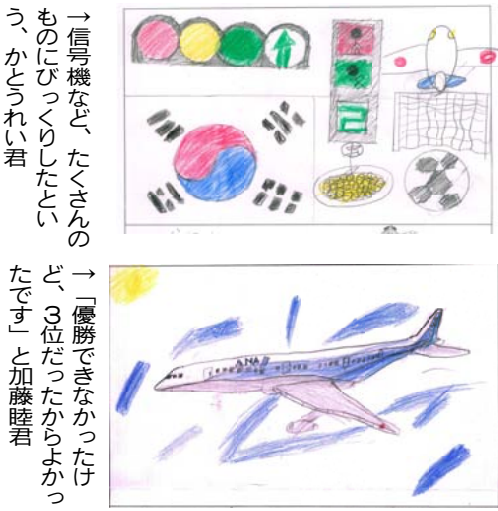
被災地にYMCAがある意義など、石巻小学校の子どもたちを支援するYMCAの青年ボランティアとの交わりは、「奉仕する者」としての生き方(ロールモデル)を彼らの中に芽生えさせたいと思います。心と精神を尽くして子どもに奉仕するYMCAの青年との交わりは、子ども達なりにきっと何かを感じ取ってくれていると確信しています。

日・中・韓・シンガポール 小学生130人 サッカーで交流

アジアのYMCAから小 小学生が出場し、シンガポ
学生たちが集まる「キッズ 国から130人の小学生が
ワールドカップin韓国」 参加。東京YMCAから
が8月6日から10日まで4 は、東陽町でフットサルを
泊5日、ソウルで開催され している4人と、山手セン
。今年は、北京、シンガ ター定例野外活動の2人の



期間中の宿泊は、ソウル 市内のオリンピック公園内
にある施設で、4力国が共 友達と交流することは、大
に過ぎた。サッカーのほ きな体験である。その感想
に、景福宮にある朝鮮王 文の一部を紹介したい。
朝の文化体験やイルサンキ ャンプ場でプール遊びやバ



→信号機など、たくさんのもにびびりしたとい
う、かとうれい君
→「優勝できなかったけど、3位だったからよかったです」と加藤睦君

「ぼくはゴールキーパーで、相手チームのシュートを止められずやしかったけど、たくさん友達できていっぱい笑えました」
(小4 松田丁悠世君)

「ぼくたちは、シンガポ
ルと合同で戦いました。そ
この大会は、2002年
のワールドカップを機に、
ソウルと東京YMCAの交
換プログラムとして始めら
れたものであるが、2010
年から参加国が増え、「キ
ズワールドカップ」と発展
している。小学生たちにと
って、言葉の通じない各国
の友達と交流することは、
大きな体験である。その感
想の一部を紹介したい。
(キャナルコート保育園
南宮成一)

関東大震災 89周年 在日韓国YMCAと合同礼拝

9月1日の早天祈祷会は、例年在日本韓国YMCAと合同で行われ、今年は「関東大震災第89周年記念 合同早天礼拝」として47人の出席をもって行われた。メッセージは、在日本大韓基督教会横須賀教会牧師で在日3世となる金迅野(キム シンヤ)牧師により「越境する魂へのレクイエム」と題して語られた。関東大震災直後のデマにより多くの朝鮮人が殺戮されたこと、「一円五十銭」の発音により選別された無念の死への鎮魂のとき



と同時に、被災者や弱き者を大義のもとさらに重荷を負わすことへの警鐘が述べられた。防災の関心が高まる中、歴史を見据えて、障がい者、在日外国人と言った方々を視野に入れることや福島で残留放射能にてさらに追い詰められている方々への支援等を改めて考えさせられるときとなった。
(本部事務局長 本田真也)

東京170回ストパレィ 米国生まれの参加者 増える

フロストバレーYMCA す。週末になると家族や
Aは年間を通じてキャン 研修(カンファレンス)
プ場をオープンしていま ログラム)で賑わいま
す。ニューヨーク州の大 す。そして6月末から8
自然の中にある、野外活 月末まではサマーキャン
動を専門としたYMCA プ一色になります。
です。
秋・冬・春の平日には どもたちが、日本語を使
移動教室や修学旅行(ス った、東京170回ストパ
クールプログラム)で大 レィYMCAパートナー
勢の子どもたちが訪れま シップのサマーキャン
に参加しま
した。例年
を大幅に上
回る申込み
でした。2
する子ども
が増え、早
速調べて
なっていました。
5年のサマーキャンプに
(在フロストバレーYM
CA 星住秀一)



今年も節電のため、ち
うちは灯りをつけずに飾
ったが、「サ・ドリーム・
スクエア・ジャズオーケ
ストラ」によるジャズバンド
の演奏や各店の呼び込みで
会場は明るくにぎわった。
抽選会には自転車やデ
ズニートケット、
ズニートケット、
隣の(株)タイエーや野村ビ
ネスサービス(株)、コストコ
ホールセールジャパン等協
賛企業からいただいた生活
用品や各種寄贈品など48
の賞があり、40分にわた
って抽選が行われた。子
どもには、抽選会とは別に
ジャケン大会を行い、カ
ブト虫やぬいぐるみを
プレゼント。益金約50万円は、東
日本大震災復興支援活動
がYMCAの行う公益活動
のために用いられる。
(広報室)

プロ選手とバスケットボール



聖路加国際病院と協働

8月26日、改装となった 東陽町エルネスセンター
にて、「聖路加国際病院・ Y
MCAバスケットクリニッ
ク」が、76人の参加をも
って行われた。7月に開催
された「聖路加国際病院・
YMCAバスケットクリニッ
ク」の流れの中で、形成外
科松井瑞子医師のコーデ
ィングによりプロ・バスケ
ットボールプレイヤー3人
のもとバスケットクリニッ
クを行った。松井医師の患
者とその家族、友人を対象
にしたもので、幼児から中
学生までの参加であった。
流となった。
本田真也

今回も、このようなプロ
グラムをおして、スポー
ツの楽しさ、仲間との出
会い、達成感を感じ、治
療にも前向きに取り組
み、過ぎて欲しいとの願
いのもと行われている。
東京YMCA主管、主催は日
本YMCA同盟、聖路加国
際病院が共催、そして、
ザ・ワールドワイド・ジャ
パン株式会社協賛のもと
実施された。聖路加国際
病院バスケットボール同
好会の方々もサポート
として駆けつけ、支援の
力があがりつつある。
(本部事務局長 本田真也)

台湾青年がボランティア 夏のキャンプで活躍

ICCPJ(= International Camp
Counselor Program
in Japan)は、毎年、台
湾で日本語を学ぶ学生達
が、日本のYMCAキャン
プ場でボランティアをし
ながら日本語と日本文化を
学ぶ交流プログラムで、今
年は7月17日から8月17
日の1ヶ月間、37
人が来日した。東京YM
CAでは、妙高高原ロッジ
でアニメ文化も満喫した。
2人、山中湖センターに
3人を受入れた。
キャンプ場では日本の学
生ボランティアたちと寝食
を共にし、忙しいキャン
プ場の施設業務を担って
くれた。

野外研修の前後には、東
京や大阪、京都などの観
光(彼らの言葉によれば「冒
険」)も楽しんだ。山中湖
センターでの研修を終え
た3人は浅草観光へ。スカ
イツリーを背景に写真を撮
り、仲見世を丹念に見て回
った。初めての体験に回
は大喜びだった。また、日
本の大学生と一緒に、池袋
でアニメ文化も満喫した。
学生同士でFacebookで「お
友達」になり、帰国後も交
流は続きそうだ。
(国際協力部 柳原みず
き)

オール東京YMCAが集う 夏まつり 賑やかに

毎年8月4土曜日に東 京YMCAの全会員・関係
者が集う「YMCA夏まつ
り」が25日、東陽町セン
ターで開催された。酷暑
の中、炭火焼や冷やし中
華など12の模擬店が腕
ふるった。また、仙台の
笹かまぼこ、三宅島の牛
乳せんべい、小千谷のそ
ぼなど、被災地の物産も
並んだ。
抽選会には自転車やデ
ズニートケット、
ズニートケット、
隣の(株)タイエーや野村ビ
ネスサービス(株)、コストコ
ホールセールジャパン等協
賛企業からいただいた生活
用品や各種寄贈品など48
の賞があり、40分にわた
って抽選が行われた。子
どもには、抽選会とは別に
ジャケン大会を行い、カ
ブト虫やぬいぐるみを
プレゼント。益金約50万円は、東
日本大震災復興支援活動
がYMCAの行う公益活動
のために用いられる。
(広報室)

